

世界の卓球、共通語は中国語

● 放眼日中 ●



少し前の話で恐縮だが、5、6月にドイツで行われた世界卓球選手権に久しぶりに日本選手が大活躍して、大いに盛り上がった。特に女子シンドルスの平野美宇選手、ダブルスの伊藤美誠・早田ひな選手ら10代の選手が次々に表彰台に上がる姿に「卓球の世界も変わったな」と感じた人は多かったのではないだろうか。

これまで日本の卓球界を背負ってきたのは、何と言っても福原愛選手。彼女は日本のみならず、その愛くるしい姿、礼儀正しい姿勢が中国や台湾でも大人気。何と言っても、中国卓球留学で培った東北訛りの流ちょうな中国語。筆者も実際、北京オリンピックで見かけたが、その人気はずば抜けていた。彼女の台湾選手との結婚、そして妊娠は東アジア圏ではそれだけでニュース速報されるほどの注目度だ。その愛ちゃん無しで、

この盛り上がり。彼女の長年の努力・苦勞が実を結んだと言えるのではなからうか。

もう一人の功勞者は、やはり石川佳純選手。彼女もロンドン、リオの両オリンピックで日本のエースとして活躍し、卓球人気を支えてきた。今回、ミックスダブルスで初めて世界の頂点に立った。だがその彼女の優勝インタビューで、ドイツ人リポーターの英語の質問に、通訳を交えて日本語で話していたのには正直ちょっとがっかりした。もしこれがテニスの錦織圭選手や、今年限りで引退することを表明したゴルフの宮里藍選手なら、すべて英語で答えていただろう、とつい思ってしまったのだ。

だが翌日、何気なく目にした動画サイト。そこには中国メディアの質間に流ちょうな中国語で答える石川

選手の姿があり、これまた大変驚いた。愛ちゃんだけが中国語ができるわけではないのだ。当然、彼女もこれまで「打倒中国選手」を目指して、中国に修行に行き、習うことも多かつたはずだ。そのためには、当然ながら言語の習得も必要だったに違いない。よく見てみると、石川選手にも中国人ファンは多いようで、会場では「佳純、加油！」という声援が飛んでいる。

世界の卓球界は、中国を頂点として、中国語圏の選手が上位を占めている。ヨーロッパや南米にも、中国からの帰化選手がたくさんいる。気が付かなかつただけで、もう何年も前から卓球界の共通語は中国語だったはずだ。日本のトップ選手が英語はできなくても中国語はできる、とこの意味で当たり前のことだったのだ。

各国に帰化した中国人はその国の言葉も学び、生活に馴染み、そして卓球の技術を伝え、この競技を国際化してきた卓球界の真の功勞者と言える。

今回の世界選手権で躍進を見せた日本の若手選手は、中国語ができるのだろうか。残念ながら、技術は十分に向上したとはいっても、今回も中国選手に勝って上位進出したわけではない。もう一段上がって頂点をつかむためには、中国語も必要になってくると思われる。

1980年代は多くの中国人が日本語を学んだが、それは技術の習得、そして稼ぐためだった。今やその立場は変化し、卓球のように中国に学び、中国人が世界に伝えていく時代になっていくように思える。一般の日本人にも、語学の習得を勧めたい。その世界が広がることは間違いない。



コラムニスト・アジアソウオッチャー 須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。